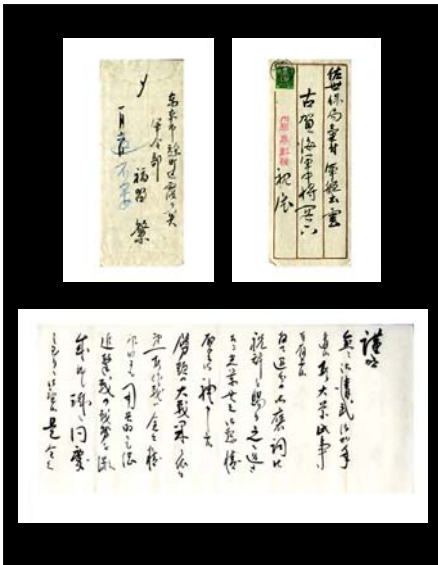


.....「史料紹介コーナー」.....

平成27年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 <sup>ふくとめ</sup>福留 <sup>しげる</sup>繁 1891~1971年 《  
 一鳥取県出身の海軍中将一



古賀峯一宛福留繁書簡 (登録番号: ⑨古賀-8-2)

福留繁中将は、明治45年7月、海軍兵学校(40期)を卒業後、連合艦隊兼第1艦隊参謀長、軍令部第1(作戦)部長などの要職を務めています。この史料は「古賀峯一宛福留繁書簡」で、大東亜戦争開戦直後の昭和17年1月6日、軍令部第1部長の福留少将が支那方面艦隊司令長官の古賀峯一中将(後の連合艦隊司令長官)に宛てた書簡です。この中で福留少将は、開戦「劈頭の大戦果に依り第一段作戦は全く精神的にも用兵的にも総追撃戦の戦勢を激成致し誠に同慶の至りに御座候、是全く山本長官の不退転の決意と非凡の統率に因るもの之有」、しかし「今日迄の戦果の如き未だ小成に過ぎず前途の遼遠困難測り知るへからさるもの有之候に對し真に肝胆を砕きて有終の美を濟さざるへからさるものと深く覚悟罷在候、何卒倍々御教示御指導賜り度」と記しています。



台湾沖航空戦並びに関連電報綴 (登録番号: ④電報-63)

軍令部第1部長を経て古賀連合艦隊司令長官の参謀長を務めた福留中将は、昭和19年6月15日、第2航空艦隊司令長官に任命されます。第2航空艦隊は比島決戦のために新編された部隊で、その主力は九州南部に展開中の第6基地航空部隊でした。昭和19年10月12日、米機動部隊は比島上陸に先立って、日本本土との中継地にあたる台湾を空襲して日本軍の増援を阻止しようとします。これに対し第2航空艦隊は、基地航空部隊の全力をあげて米機動部隊を攻撃、特に夜間又は台風などの悪天候下の雷撃を専門とするT攻撃部隊(TはTyphoon(台風)又はTorpedo(魚雷)の頭文字)は、空母9~13隻撃沈の大戦果を報じます。しかしこれも誤報と分かり、その後の作戦に大きな影響を及ぼしました。この史料は「台湾沖航空戦並二関連電報綴」で、T攻撃部隊等の電報が綴られています。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影こともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。  
 防衛研究所企画部企画調整課  
 専用線：8-67-6522、6588 (史料紹介コーナーのみ6668)  
 外線：03-3713-5912  
 FAX：03-3713-6149 ※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>